

凧通信～あおぞら食堂(炊出し・復興支援)活動報告

第11号 発行 平成24年4月19日株式会社 凧スピリッツ メディア部編集

◆2012年3月報告書……………ラーメン凧 復興支援活動担当 あおぞら食堂責任者 椎葉三江

3 月度の活動報告をさせていただきます。



そろそろ春の足音が聞こえ始めるのかと思いきや、ここ南三陸町はまだまだ雪が吹雪く日もあったりと寒い日が続いております。町のあちこちでは復興商店街や水産加工場等の建物などの建設が見られ少しずつ前に進んでいっている姿が目に出れます。

なかでも南三陸町歌津にできた「[及新](#)」という加工場や志津川にできた「[さんさん商店街](#)」などは非常に人の目を引く外観で、外部から来られる方々も車中から見学しながら通っているようです。

さて、ここ「あおぞら食堂」の3月の動きとしては、雪等の悪天候や工事業者さんの都合などもあり、基礎撤去作業が進まない状況でした。

砕石敷きの完了が3月13日と、当初の予定を大幅にオーバー。そのためトレーラーハウスの移動も遅れてしまっておりました。

しかし、その間、東京より代表の生田とともに仙台市から五福星の早坂様ご来訪。今後のあおぞら食堂としての方向性やあり方、仕組みや形など見直していただくことが出来、4月20日を再スタートの日として準備を進めていくことになりました。



(改装中のキャンピングカーの室内)



(棚をつけている様子)

そこからは以前に埼玉の比企商工会議所青年部の方々から寄贈していただいたキャンピングカーの改装工事や荷物の整理などを中心に進めております。「生田社長、早坂様にはお忙しい中お時間作っていただき様々なご指導いただきましたこと深く感謝いたします。」

今は、とにかく4月20日のオープンに向けしっかりと足元を固めて生きたいと思っております。

何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最近の南三陸町の様子といたしましてはワカメの収穫が始まり海岸のあちらこちらで収穫してきたワカメを茹でたり塩をまぶしたりの作業をされている風景を目にすることが出来ます。



(刈り取ってきたワカメを船から下ろして)



(船からおろしたワカメを分けます)

養殖したワカメやメカブを海に出て刈り取ってきて

まず、ワカメは海岸で茹でたり塩をまぶし茎の部分と葉の部分にわけたり、メカブは生のまま茎からはずしたりの作業。



(ワカメを茹でている様子)



(茹でた後、冷まして水から上げます)

家族総出、地域の方総出といった感じでの作業風景は

結束力の強さを見せ付けられる感じで、やはりこの町の復興には海の力が大きくかかっていると感じさせられる瞬間でもありました。



(茹でたワカメに塩をまぶします)



(塩をまぶし脱水。茎と葉に分けます)

また、開港の日には海岸で海藻取りなどをされる姿もたくさん見られ漁師町としての元の姿へ戻りつつある様子もうかがうことができます。

そんな中でも皆さん「まだやんね～のか～？」など温かい声をかけてくださり一日も早い再スタートを心待ちにしてくださっているようです。

そんな町の方々のためにも心休まる場所作り、心も満たされるような味作りに努めて参ります。



(開港の日に採ってきた海藻を干している様子)

さてこの度、以前より進めて来た、あおぞら食堂の社団法人化も大詰めとなってまいりました。

より一層この支援が地域の方々に反映されていくよう私といたしましても日々勉強し

推し進めていけるよう精進していきたいと思えます。

これからも「あおぞら食堂」ともどもご指導よろしくお願ひいたします。



◆ラーメン凪グループ各店3月募金額

3月末現在の募金総額です。2月 6,134,771 円+3月募金額 48,832 円= 合計 6,183,603 円。

3月末での募金累計総額は 6,183,603 円になります。皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

◆協賛企業紹介(順不同)

株式会社アブ・アウト(らーめん山頭火)様、株式会社 アール・エー・アール『麺や七彩』様、カネジン食品株式会社様、一般社団法人仙台とどけ隊様、社団法人 日本トレーラーハウス協会様、仙台ラーメン店 五福星様、災害救援ネットワーク埼玉様、大崎裕史様、東京食文化創研舎(食文研)様、株式会社カナテック様、株式会社 Pacific japan 小林様(歌津カー)、株式会社興 明道宇弘様(エコライン寸胴鍋) 株式会社クーカル様 以上。